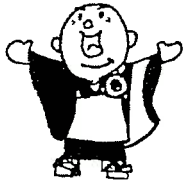


# なますて



※「なますて」とは… インドのあいさつで「おはよう」や「こんにちは」の意味で使われます。我々の称える「南無」の語源とも言われています。



## 時は“いのち”なり

「なますて」第7号をお届けします。8月と12月の年2回発行ですが、なかなか皆さんからの反応が少ないのが残念です。読んでいただいているのかなあ…。もちろん内容はまだまだ不十分なのですが、だからこそ皆さまからの感想やご意見、ご要望を頂きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

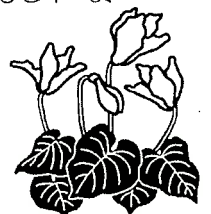
今年も残り少なくなって参りました。本当に一年経つのもあつと言う間ですね。『時はいのちなり』という言葉があります。まさしく一瞬一瞬がいのちです。命を刻んでいるのです。時間をもっと大切にしないと…と反省してばかり。お釈迦さまの最後の言葉である「すべてのものは移りゆく(形あるものはいつか壊れ、命あるものは必ず死ぬ) 今を大切に励みなさい！」が心に響きます。

次のようなアンケート結果があります。90歳以上のご老人に「長い人生を振り返って後悔していることは何ですか？」という質問をしたところ、多くの方が「もっと冒険をしておけばよかった！」と答えたそうです。人生は一度きりです。今を大切に！今日一日を精一杯！！もっともっと色々なことにチャレンジしてみることが大切かも知れませんね。

【メイド イン ドリーム】…すべては夢から作られる。どんな小さなことでも夢を見ることから始まる…といえます。パソコンも携帯電話も電気自動車も宇宙旅行も…みんなこんなものがあたらいいなあ…という一人ひとりの夢が実現したものです。若いうちならまだしも何を今さら…と言う声が聞こえてきそうですね。でもあきらめてしまうのではなく、今一度自分は何をしたいのか？何をしたかったのか？自分の心に問いかけてみては如何でしょうか！また新たな人生が見えてくるかもしれませんよ。

それでは年末年始、どうぞ風邪などひかないようにお過ごし下さい。

合掌



# 秋季開山忌

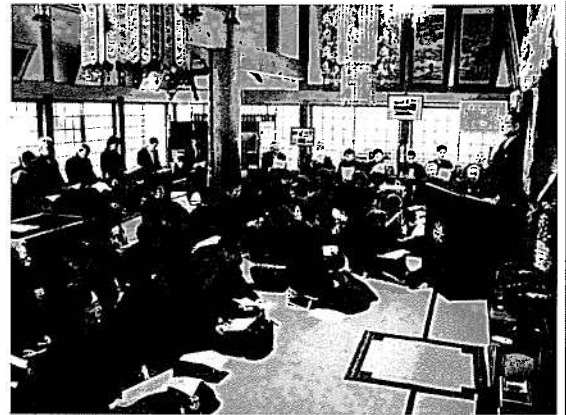
去る、11月23日、恒例の秋季開山忌が行われました。当日は肌寒く、朝から冷たい雨の降る生憎の気候ではありましたが、祝日と言うこともあってか、たくさんの方に参詣いただきました。一般参拝者は約180名程でした。

そして塔前(当番)の杉本恵美子総代(花巻)高橋幹夫総代(宮野目)高橋憲一総代(豊沢)の組下総勢105戸のご協力により無事開催することができました。また当日は、朝から塔前の御婦人方総勢50名程の皆さんに約200食のおいしい食事の支度をしていただきました。お手伝い頂いた県内の和尚様方にも「大変美味しい」と評判でした。本当にありがとうございました。

また、42名の御詠歌講員の皆さんが法要前に30分ほど御詠歌の奉詠をしていただきました。

御詠歌とは、先人が仏法(仏の教え)を歌や詩にし、それに節をつけお唱えするものです。光林寺では昭和24年から大和流の御詠歌を奉詠しております。まだお聞きでない方は、是非、一度お聞き、興味のある方はご参加いただきたいと思ひます。

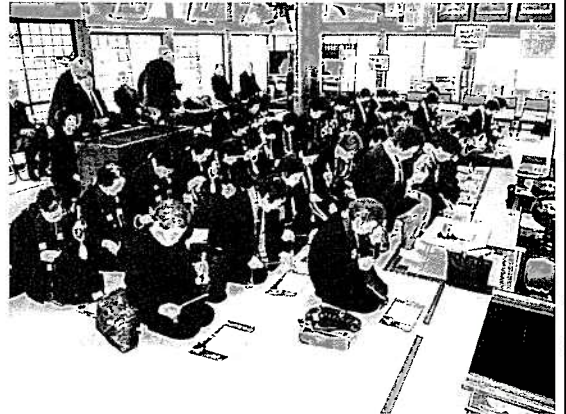
これだけお檀家の皆様にご協力いただいて成り立っている開山忌は他には、まずありません。大変なご面倒をおかけしているとは思ひますが、どうぞ、これからもご協力いただきますようよろしくお願ひ致します。



↑盛岡教浄寺ご住職のご法話



↑当番の皆さんが持ち寄って下さった料理  
白黒で分かりにくいですがまるで紅葉のようにきれいで、しかも美味しい!!!



↑御詠歌奉詠

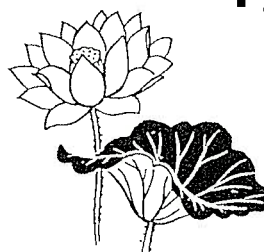
## 平成二十四年 仏具奉納者

本年は以下の方々にご寄付をいただきました。ご紹介申し上げます。

○接待机10台・高座椅子30脚・椅子運搬用台車4台

石鳥谷町 大瀬川 菅原 善治 殿

誠にありがとうございました。衷心より御礼申し上げます。



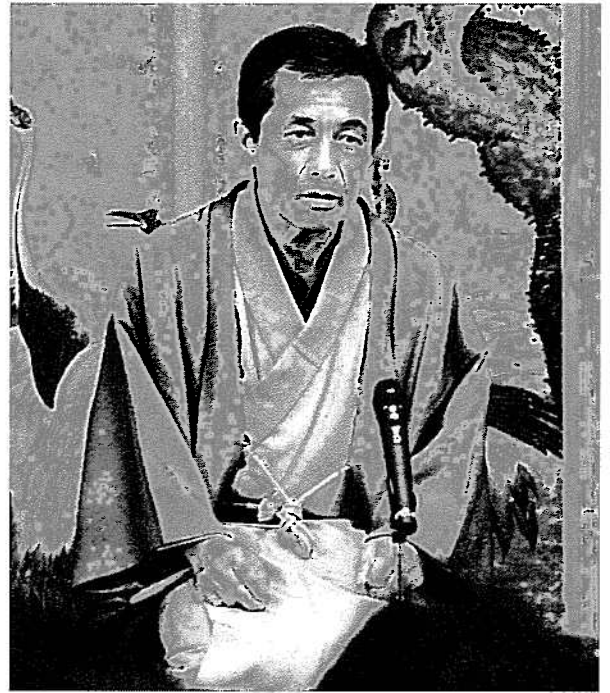
# 光林寺寄席

11月11日、柳家喜多八さんをお招きし、第49回光林寺寄席を開催致しました。

当初、当日は地区や学校の行事が多く重なり、来場者が少ないのではないかと心配しておりました。

しかし、いざ蓋を開けてみれば、好天も手伝ってか、100人を超える皆さんにご来場いただきました。本当に感謝感謝です。

喜多八さんはコアなファン(おっかけ)が多いことでも有名です。盛岡や県南からわざわざ来場なされた方もいらっしゃいました。今回も独特のニヒルでクールな話し口で観客の心を掴む素晴らしい落語を聞かせて



柳家喜多八さん

て下さいました。また、前座として石鳥谷在住のアマチュア落語家、田舎家金助さん(当寺檀家)に一席ご披露いただきました。ありがとうございました。次回は記念すべき第50回。いよいよ『柳家小三治』さんの登場です。

ご期待下さい!!!

次回 第50回光林寺寄席 予告

平成25年6月15日(土)

柳家小三治 落語会



特別出演: 田舎家金助さん

## るんびにい美術館からのお知らせ

星ヶ丘にある「るんびにい美術館」では、定期的に企画展を開催しています。今回は10月12日(金)～1月8日(火)の日程で、『蒲生卓也・斎藤努』展を開催しています。蒲生さんは福島県いわき市、斎藤さんは秋田市由利本庄市の出身です。表現の方向性はお互いに違いますが、高い独創性と鋭敏な感受性を持ったお二人です。是非、ご来館いただきたいと思ひます。

『るんびにい美術館』(入館無料)

花巻市星ヶ丘1-21-29 TEL0198-22-5057

開館時間 10:00～17:00 (水曜定休)



# Q and A

Q. 念珠(数珠)について教えてください。

A. 念珠(数珠)の起源は諸説ありますが、古代インド時代のバラモン教の道具が発祥で、中国を経て仏教と共に日本(飛鳥時代)へ伝来したと考えられています。

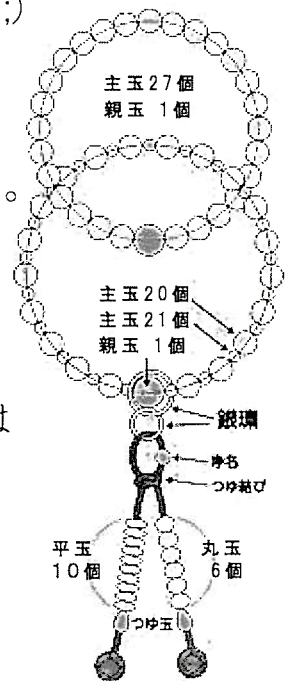
現在ではゴムを通した腕輪念珠に代表されるブレスレットの様な物もありますが、本来は「お唱えしたお念仏を数えるのに使う珠」という意味です。宗派によって形が違いますが、時宗では二連の念珠を使用しています。(右下図)

使い方は上の輪(27)を念仏ごとに珠を一つ繰り、一周したら下の輪(20)の珠を一つ繰り、一周したら房にある丸玉(6)を一つ上げ、全部上がったら今度は平玉(10)を一つ上げる・・・という風にします。気が遠くなりそうですね(^;)

計算してみると、「 $27 \times 20 \times 6 \times 10 = 32,400$ 」回数えられるます。その為、この念珠は「三万繰」と呼ばれます。また、小さい珠の物は「 $40 \times 27 \times 6 \times 10$ 」で64,800回なので「六万繰」と呼ばれます。ちなみに親玉は数えません。それは暗闇でも一周したのが分かるようにするための目印だからです。

最後にもう一つ。念珠の珠の数は「108」と聞いた事がある方もいらっしゃるかと思いますが、もちろん、それも正解です。じゃあ「27」と言う・・・そう「108」の四分の一なんです。他にも「1080」(!!!)や「54」という物もあります。ご自宅にある念珠を数えてみるのもおもしろいかもかもしれません。

もし、時宗の念珠をご所望の際はお寺までご相談下さい。

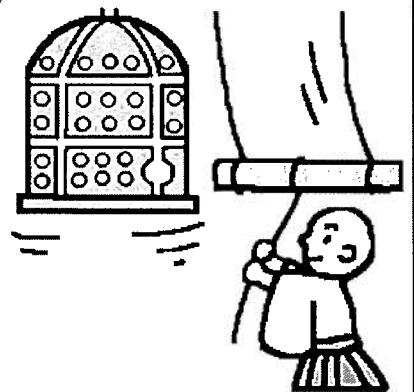


## 除夜の鐘 & 元朝参り

光林寺では大晦日の23:55頃から0:30頃までにお参りいただいた皆様に除夜の鐘をついていただいています。例年、大変冷え込みますので、暖かくしてお参り下さい。なお、鐘突き参加の方には温かい飲み物を用意しております。どうぞ、ご参加下さい。

また、ご希望の方には御札(阿弥陀如来・熊野権現)を正面玄関にてお授けしております。(志納¥2~3,000)

新年はまず、菩提寺と御先祖様にお参り下さい。



## 編集後記

かつて、この編集後記でブログをご紹介した『菓子工房 夢舎夢舎(おしゃむしゃ)』が、この度新店舗をオープン致しました。定番のお菓子から新作のケーキなどを利用者さん達が頑張ってお作ってます。喫茶スペースもありますので、是非、足をお運び下さい。

詳しくは、光林会ホームページでご確認下さい。 <http://kourinkai-swc.or.jp/>

